

## アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	海外研究活動基金 KUASU Challenge+2023
<b>代表者名</b>	経済学研究科 久野 秀二
<b>事業概要</b> (600字程度)	<p>経済学研究科の「東アジア持続的経済発展研究コース」は環境・社会・ガバナンスという切り口と多角的・学際的・国際的な視点から、開発政策・産業政策・経営管理をめぐる諸問題を解決し、東アジア地域を中心とする世界経済の持続可能な発展に資する学術研究者および実務エコノミストを養成することを目的とするプログラムである。同プログラムはその持続的可能な発展というテーマの性格上、研究対象となる社会経済的問題を幅広く解釈し、隣接学問分野の手法を取り入れる学際的アプローチを特徴としており、海外でのワークショップやフィールド調査、出身国以外の学術交流協定での研修やインターンシップへの参加を所属学生に促している。経済学研究科はまた、京都大学ジャパンゲートウェイ構想の一環として、学内競争的資金も活用しながら、学生が海外連携研究者に積極的に研究指導を求め、あるいは海外のフィールドで調査研究活動に取り組む機会を提供することを目的に、海外短期調査助成プログラムを実施してきた。本事業は、それらの成果と経験を活かしながら、海外（外国人留学生については日本国内を含む）での調査研究活動、より具体的には、修士論文・博士論文研究のためのフィールド調査やアーカイブ調査を実施したり、海外の大学・研究機関・企業で研究への助言を受けたりする学生を対象に渡航費・滞在費の一部を補助するものである。</p>
<b>成果の概要</b> (800字程度)	<p>本事業は4月に入ってから募集を開始し、12月下旬で締め切った。延べ13件の申請があった。申請にあたってはフィールド調査を行う組織や人物への交渉、ワークショップや学会の申込み等、すべてを自分自身で計画し実行することを要求した。審査にあたっては、研究テーマと研究アプローチ・手法の妥当性、研究計画の具体性、フィールド調査によって得られる成果についての見通し、研究成果の将来展望の観点から審査委員会で厳密な審査を行った結果、必要書類の準備が間に合わなかった1名を除き、12名の申請者について採択、補助を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 博士1回生 ジャマイカ出身。ジャマイカ・キングストン等で博士論文執筆のための資料収集、インタビュー調査を行った。</li> <li>② 修士2回生 日本出身。ノルウェー・オスロで研究発表を行った。学会で得たアドバイス・気づきを今後の研究活動に活かす。</li> <li>③ 博士2回生 中国出身。ノルウェー・オスロで研究発表を行った。学会で得たアドバイス・気づきを博士論文執筆に活かす。</li> <li>④ 博士1回生 韓国出身。韓国・ソウルで研究調査およびノルウェー・オスロで研究発表を行った。調査および学会で得たアドバイス・気づきを博士論文執筆に活かす。</li> <li>⑤ 博士3回生 中国出身。中国・北京で研究発表を行った。ワークショップで得たアドバイス・気づきを博士論文執筆に活かす。</li> <li>⑥ 博士1回生 日本出身。インドの複数地域で博士論文執筆のための資料収集、インタビュー調査を行った。</li> <li>⑦ 博士4回生 中国出身。シンガポールで研究発表を行った。ワークショップで得たアドバイス・気づきを博士論文執筆に活かす。</li> <li>⑧ 修士2回生 タイ出身。タイの複数地域で修士論文執筆のための資料収集、インタビュー調査を行った。</li> <li>⑨ 博士4回生 中国出身。フランス・ベルギー・ドイツで博士論文執筆のためのインタビュー調査を行った。</li> <li>⑩ 修士2回生 タイ出身。タイの複数地域で修士論文執筆のための資料収集、インタ</li> </ol>

	<p>ビュー調査を行った。</p> <p>⑪ 修士2回生 フィリピン出身。フィリピン・マニラ等で修士論文執筆のための資料収集、インタビュー調査を行った。</p> <p>⑫ 博士4回生 中国出身。オーストラリア・クイーンズランドで研究発表を行った。ワークショップで得たアドバイス・気づきを博士論文執筆に活かす。</p> <p>以上のように、いずれの学生も有意義な調査研究活動をそれぞれ実施できており、研究内容も東アジアの持続的可能な発展に関するものであり、KUASU 事業の発展に寄与することが期待される。</p>
--	--